



学校通信

平成29年度 第3号
平成29年 6月 1日
練馬区立開進第三小学校
校長 土屋 信行

苦い思い出

校長 土屋 信行

今月も、担任時代の話を書かせていただきます。

学級の保護者会の席上で、ある保護者の方から「私の子供は、『先日起きた学級内のトラブルに、何もかかわっていなかったのに先生に叱られた。』と言っている。これはどういうことか。」という内容の強い抗議を受けたことがあります。

この件に関して、子供たちはそれぞれ自分の非について認めていました。その上で指導をしていましたので、「正しいことをしているのに…納得いかない」という思いで、まだ若かった私は、「お言葉を返すようですが…」と、その場で反論しました。他の保護者の方は、お困りの表情を浮かべられ、何とも気まずい雰囲気の中、しばらくやり取りをしましたが、結局その保護者の方は、話の途中で席を立たれ帰られてしまいました。

その後、その方は事実を理解されたようですが、私や学校に対して、かなり批判的な態度をとられるようになってしまいました。苦い思い出です。

それから何年か経ち、再び同じようなことがあったのです。この時は私も前の経験がありましたので、その場では、「私の言葉が足りず、誤解を招いたのかもしれませんが。申し訳ありません。」というようなお答えをしました。

次の日、前日の件の子供を呼び、「昨日の保護者会で、お母さんは～と、おっしゃっていたぞ。今日帰ったら自分から本当のことを言えるな。」ときつい口調で伝えました。その子は引きつった顔で、「はい。」と答えました。

数日たった放課後のことです。教室で仕事をしていると、その子のお母様がお見えになりました。「先生、あの時はすみませんでした。」誤解も解け、その後、その保護者の方とは大変良好な関係を築くことができました。

人に何かを伝えたいと思うなら、まずは相手の気持ちや立場を尊重し、丁寧な言動を心掛けることが大切であると、私はこの二つの経験から学びました。

吉野 弘さんの詩にある「正しいことを言うときは少しひかえめにするほうがいい 正しいことを言うときは相手を傷つけやすいものだと気づいているほうがいい」を最近改めて実感しています。

さて、いよいよ3日は土の校庭で行う最後の運動会です。子供たちにとって、十分な達成感を味わえる「よき思い出」の一日になることを願っています。多くの皆様のご来校を心よりお待ちしております。

